



企業と人のアタマとココロをスッキリさせるお手伝い

オフィス石野

お問い合わせ [info@of-i.jp](mailto:info@of-i.jp)



052-211-5185



052-211-5186

名古屋市中区丸の内2-10-30 インテリジェント林ビル 2F

## 「職場の飲みニケーションは必要」は古い考え!?

### ◆約6割が「職場の飲み会は必要」

「飲みニケーションは必要だ!」という考えも今や昔の話とも思われがちですが、まだまだ健在のようです。

株式会社インテージが今年8月に実施した「仕事帰りの外飲み事情 2012」(ビジネスパーソン意識調査)の結果が発表されましたが、この調査によれば、約6割の人が「職場の飲み会は必要」と思っていることが明らかになりました。

### ◆仕事帰りの飲みの相手は誰?

最近3カ月の仕事帰りの外飲み(職場以外の人との飲みも含む)の状況ですが、67.1%の人が飲みに行っており、男性20代で81.0%、女性20代で75.0%でした。32.9%の人が飲みに行っていないと回答しましたが、特に女性30~50代の割合が高いようです。

仕事帰りに飲む相手の上位は、「職場の同僚(同性、異性問わず)」が最多(56.1%)であり、「職場の同僚(同性のみ)」(33.3%)、「職場の上司」(32.6%)が続いています。

やはり、仕事の延長で職場の人と飲みに行く人が多いようです。

### ◆職場の飲み会は必要 or 不要?

職場の飲み会については、約6割(58.9%)の人が「必要だと思う」と回答し、男性のすべての年代と女性の20代では6割以上が「必要」と回答しているのに対し、女性の30~50代では5割以上の人が「必要だと思わない」と回答しています。

職場のコミュニケーションを図る1つの方法として「職場の飲み会」は有効なようですが、20代男女の3割以上は「上司からの誘いを断ることができない」と思っている状況もまた、あるようです。

## 高年齢者雇用の状況と改正法施行後の高齢従業員の処遇

### ◆希望者全員が65歳以上まで働ける企業は5割弱

厚労省は、2012年「高年齢者の雇用状況」（6月1日現在）の集計結果を10月中旬に公表。

これによれば、高年齢者雇用確保措置を「実施済み」の企業の割合は97.3%（前年比1.6ポイント上昇）、大企業で99.4%（同0.4ポイント上昇）、中小企業97.0%（同1.7ポイント上昇）でした。

また、希望者全員が65歳以上まで働ける企業の割合は48.8%（同0.9ポイント上昇）で、大企業で24.3%（同0.5ポイント上昇）、中小企業で51.7%（同1.0ポイント上昇）との結果となりました。

### ◆約4分の1は継続雇用を「希望しない」

また、定年到達者の継続雇用の状況についてですが、過去1年間に定年年齢に到達した人（43万36人）のうち、「継続雇用された人」は73.6%（31万6,714人）、「継続雇用を希望しなかった人」は24.8%（10万6,470人）、「継続雇用の基準に該当しないこと等により離職した人」は1.6%（6,852人）でした。

約4分の1の人は継続雇用されること自体を望んでいないようです。

### ◆継続雇用者の処遇はどのように決める？

高年齢者雇用安定法の改正（2013年4月1日施行）により、労働者が希望すれば、企業は65歳までの雇用確保措置（継続雇用等）が義務付けられます（例外あり）。その際に問題となるのが、継続雇用者の「処遇」です。

日本経団連が行った「2012年人事・労務に関するトップ・マネジメント調査」の結果によれば、法改正に伴って必要となる対応について、44.2%の企業が「高齢従業員の貢献度を定期的に評価し、処遇へ反映する」と回答しています。

高齢従業員の業務内容や貢献度に応じて、処遇を決定しようとしている企業が多いようです。

## 最新調査結果にみる残業代支払いと有休消化率の現状

### ◆所定外労働時間に関する調査結果

連合総合生活開発研究所（以下、「連合総研」）が、20～64歳の民間企業雇用者（2,000名）に対し2012年10月1～6日の間に行った調査によると、2012年9月中に所定外労働を行った人は39.1%で、平均所定外労働時間は38.2時間でした。

特に、男性の所定外労働時間を行った割合は55.2%と多く、平均所定外労働時間は43.0時間でした。

### ◆残業代支払いに関する調査結果

所定外労働を行った人のうち「残業手当の未申告がある」と回答した人の割合は35.3%で、未申告分の時間の平均は21.3時間でした。

未申告ありと回答した割合は、男女の正社員・非正社員を合わせた全体の約4割ですが、特に男性正社員に多く見られ、未申告分の時間は平均24.8時間でした。未申告の理由については、「働いた時間通り申告しづらい雰囲気」が36.3%、「残業代に限度がある」が24.2%でした。

残業手当の全額が支払われた人の割合は46.9%で、「4割以上6割未満が未申告」だった人が5.5%、「2割以上4割未満未申告」だった人が5.3%でしたが、まったく支払われていない人も6.3%に上ったそうです。

### ◆有休消化率に関する調査結果

上記調査において、2011年度に支給された有給休暇の消化率について尋ねたところ、「概ね消化できた」と回答した人の割合は、非正社員で約4割、正社員で約2割にとどまることがわかりました。

厚生労働省が2012年11月1日に公表した「就労条件総合調査」においても、2011年における正社員の有休取得率は49.3%で、前年比で1.2ポイント上昇して2年連続上昇したものの、「2020年に70%」との目標には遠く及ばない結果となっています。

### ◆賃金収入も回復の兆しなし

さらに、同調査において1年前と比べた賃金の増減について質問したところ、「減った」と回答した人が31.6%で、「増えた」と回答した人の23.7%を上回る結果となりました。

## 多くのビジネスパーソンが「睡眠不足」で仕事に支障

### ◆社会人の睡眠傾向の実態

朝夕の通勤電車等で、ぐっすり眠っている人をよく見かけますが、ピースマインド・イーブ株式会社がビジネスパーソン（701名）を対象に行った睡眠傾向の実態調査によると、約6割が「睡眠不足で仕事に支障が出ている」と回答したそうです。また、眠れない夜に考える人物の上位は「同僚や部下」「上司」等、仕事に関連する人であるというデータも確認されています。

### ◆平均睡眠時間5～6時間台が7割超

NHKが実施した2010年度版「国民生活調査」によると、日本人の平均睡眠時間は7時間14分だったそうです。しかし、前記調査の回答者ビジネスパーソンの平均睡眠時間は、「5～6時間台」が71%（501人）と大部分を占めています。一般的に心身ともに最適な睡眠時間は7～8時間とされている中で、「7～8時間台」と回答した人は15%にとどまりました。

### ◆約6割の社員が睡眠不足で仕事に支障

「睡眠不足で仕事に支障が出ていますか？」との質問には、「毎日のように出ている」「ときどき出ている」と回答した人が合わせて56%に上り、職場での睡眠不足による影響が明らかとなりました。

また、「眠れないとき誰のことを考えていますか？」という質問では、1位が「仕事関連の人・こと」（21%）、2位が「家族」（18%）という結果になりました。

尚、「仕事関連の人」の内訳では「同僚や部下」が最多、「上司」「取引先担当者」と続いています。

### ◆良質の睡眠が仕事効率アップにつながる

慢性的な睡眠不足は、うつ病、脳・心臓疾患、生活習慣病の悪化につながる一因となり得るとの報告もなされています。

より良い睡眠を得ることは、ビジネスパーソンの健康増進や業務の生産性向上につながりますので、良質な睡眠環境を整え十分な睡眠を確保することが、個人のみならず、組織にとっても重要な課題だと言えます。

### オフィス石野よりひとこと

早いもので、今年ももう12月。忘年会にクリスマスと行事ごとが続き、何かと慌ただしい季節ですが、一緒に集えるご縁に改めて感謝しながら、楽しい時間を満喫しようと思います♪

2012年を後悔することのないように、仕事に、遊びに、ラストスパートで行きましょう！

### 年末年始休暇のお知らせ：

**平成24年12月29日（土）～平成25年1月6日（日）**

（年内最終日は、12月28日（金）となります。よろしく願い申し上げます。）